

(防災) 緑丘小学校 4年

防災意識を高め、自ら動きだす子の育成  
～それいけ！防災マン：防災倉庫探検の実践を通して～

10月～11月（10時間）

## 1 はじめに

東日本大震災から間もなく5年。この震災によって、人々の防災意識は高まり、ものの考え方にも大きな影響を及ぼしている。しかし、当時幼児だった4年生の子供たちは、震災のニュースなどの映像の記憶もあまりなく、災害を身近なものに感じていない。また、自分の家での災害時の備えとして、水や食料をあげた子は多くいたが、安全な避難先や避難ルート、食料以外の生活物資をあげた子はほとんどいなかった。東海大地震が予想されている今、地震や風水害を不安に思ってもそれに合った知識やものの準備が十分でない子供たちの防災意識を高め、自分たちの身を守るために自分たちにできることを考え、自ら動きだす子供の育成が必要と考え、本主題を設定した。

## 2 目指す子供像

今年度の夏は全国各地で台風による災害が相次いだ。9月には本校も暴風警報で休校になったが、幸いにも大きな被害はなく、子供達の多くは「休校になってラッキー」だとか、「家で遊べた」という意識であった。しかし、一方では、台風に備える家族の動きに気付いたり、暴風や増水を心配したりしていた。また、子供たちは、道徳の時間に取り上げた東北大震災の折の中学生が小学生やお年寄りをリードして避難した話や避難所での被災者である子供たちの活動の話などから、「自分たちでもできること」を考えるようになった。そこで、災害についての理解を深め、身近にある防災倉庫について学習することで、防災への意識を高め、さらに11月に行われる「親子活動」で「防災倉庫探検」を行うことで、防災の大切さを発信する場としたいと考えた。そして、防災物品の説明にとどまることなく、より実践的な避難時の注意や家庭でもできる備えを伝えることで、家庭での防災意識をリードして行ってほしいと考えた。

## 3 表現活動(話す・聞く・書く)を通して関わり合いを深める手立て

○情報収集、整理・分析、まとめ・発信の場面で、グループ活動を取り入れる。こうすることで他者の考えのよさや自分の考えのよさに気付くことができ、かかわり合いを深め、自己有用感を醸成できると考えた

○家庭での聞き取りの場や家族に向けて発信する場を設けることで、その後の家庭での防災のリードをしていけるのではないかと考えた。

## 4 実践

### (1)災害時の様子を知ろう(1時間)

東日本大震災、阪神淡路大震災の被害や避難所の様子の写真や映像だけでなく、救助のために働く自衛隊やボランティアの人々の活動についても紹介する。また、平成20年度の岡崎の集中豪雨時の伊賀川の氾濫の写真や隣の学区である美合の降水量について知り、より災害を身近なものとして感じ取らせる。

### (2)家族に聞こう(1時間)

災害時に備えていることや過去に自分の家の近くで浸水した場所、危険を感じた場所はないかを聞き取り、マップにまとめる。

### (3)防災倉庫を見学しよう(1時間)

社会科で学んだ学校の防火設備をふりかえり、学校に防災倉庫が設置されている理由を考え、災害時には避難所となる防災倉庫に入っている防災用品を予想する。

#### (4) 専門家の話を聞こう(2時間)

岡崎市防災危機管理課の出前授業を受け、防災倉庫に入っている防災用品とその使用方法、防災訓練や岡崎市の取組について知る。

#### (5) 防災倉庫について発信する準備をしよう(3時間)

防災倉庫にある防災用品の紹介をする「グッズレンジャー」、災害時、衣・食・住のなかでも特に重要と考えた「食」についての情報を提供する「食レンジャー」、予想される災害に対しての心得や避難時の注意点を伝える「情報レンジャー」の3つのグループに分かれ、インターネットや本、岡崎市水害対応マップなどの資料を基に情報収集する。各グループで分かり易い紹介の仕方を考え、お互いに見合っけて発信の準備を行う。

#### (6) 防災倉庫探検ツアーを成功させよう(親子ふれあいデーで2時間)

家族に向けて、実演や作成した掲示物を使って、情報発信、その後、缶詰のパンの試食・アルファ米(五目御飯)の試食

##### ○主な発表内容

##### グッズレンジャー

- ・担架とリヤカーの組み合わせ、エアーマットの活用例  
組み立て式トイレと凝固処理剤、毛布、ガスコンロ、手回し式災害時用ライト付携帯ラジオなど

##### 食レンジャー

- ・防災倉庫にある食品(乾パン・氷砂糖・クラッカー・水非常食・粉ミルク)の数や利点(特にアレルギー対応のアルファ米)、ランニングストック(特別な非常食ではなく、普段食べているものを多めに買ってストックしておく)について、缶詰のパン(種類、金額、賞味期限)など

##### 情報レンジャー

- ・浸水した中を歩かなくてはならない時の注意点(履物、水深、マンホールや側溝、グレーチング、障害物について)
- ・長い棒を杖代わりにして非難するなどのアイデアの紹介。被害軽減のための対策(車の移動、下水の逆流防止策など)
- ・普段からの備え(風呂の水を流さずためておき逆流防止、生活用水としての活用などの利点など)の紹介。
- ・避難のポイント(災害をイメージ・情報収集・早目の行動)

#### 5 成果と課題

グループでの話し合いをもとに「防災倉庫探検ツアーで一人一発信」を合言葉に一人一人が前向きに取り組むことができた。子供たちは、ランニングストックのように、特別なことでなくても防災に役立つことが身の回りにはあることに気づき、自分にできることから行動していこうという気持ちを持つことができた。子供たちの発信後、さっそくランニングストックとして食品を購入した家庭が多く、また、他の防災グッズの購入、家具の固定、災害時の待ち合わせ場所等を家族で話し合うなど、家庭の防災意識の高まりもみられた。

災害は、いつ起こるかわからない。その時に備え、今後も機会をとらえ、防災意識をさらに高めて行くよう取り組んでいきたい。



写真① 実物で説明する子供



写真② クイズ形式での紹介



写真③ 大人も体験に参加